

◆ 目黒区 ◆

中小企業の景況

令和3年度第1・四半期
(令和3年4～6月)



目黒区 産業経済部 産業経済・消費生活課

目 次

1. 都内中小企業の景況	1
2. 目黒区内中小企業の景況（令和3年4～6月期）	2
(1) 今期の特徴点	2
(2) 今期の景況と来期の見通し	4
製造業	4
卸売業	8
小売業	11
サービス業	14
建設業	17
(3) 調査員のコメント	20
3. 日銀短観／東京都と目黒区の企業倒産動向（令和3年6月）	23
4. 特別調査「中小企業の事業継続について」	26
5. 中小企業景況調査 比較表・転記表	28

調 査 の 概 要

1. 調査時期 令和3年4～6月期（四半期毎実施）
2. 調査方法 面接聴取調査
3. 調査の対象と回収状況

	調査対象事業所数	有効回答事業所数
製 造 業	－	72
卸 売 業	－	21
小 売 業	－	37
サ ー ビ ス 業	－	48
建 設 業	－	31
合 計	－	209

※新型コロナウイルス感染拡大にともない、調査にご協力いただけない事業所が多数生じていることから、「調査対象事業所数」は把握不能となっております。

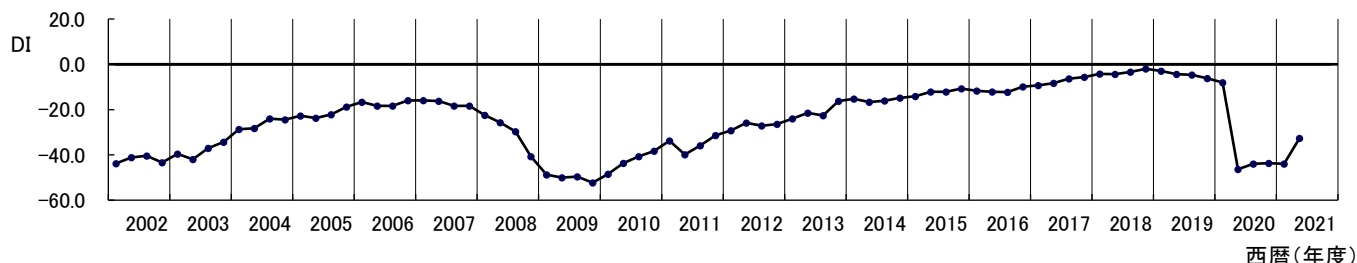
調査実施機関 一般社団法人東京都信用金庫協会
分析実施機関 株式会社東京商工リサーチ

1. 都内中小企業の景況（令和3年4～6月期）

（一般社団法人 東京都信用金庫協会調べ）

業況は全業種で改善の動き、依然苦境は続く

都内中小企業景況・6業種合計 DI



業況判断 DI（季節調整済、「良い」企業割合－「悪い」企業割合）は－32.7（前期は－44.0）と前期に比べ11.3ポイント改善した。全業種で下降幅が縮小したものの、コロナ以前の水準への回復はまだまだ見通せない。

来期は、緊急事態宣言解除後の消費拡大や、ワクチン接種拡大により経済活動の正常化が期待され、卸売業・製造業・サービス業・小売業でゆるやかな改善が続くと予想している。一方、資材高騰の影響を受ける建設業・不動産業は足踏み状態と見ている。

	前 期	今 期	増 減	来 期 予 想	今期との増減
製 造 業	-50.2	-37.8	12.4	-33.7	4.1
卸 売 業	-46.9	-38.2	8.7	-33.7	4.5
小 売 業	-50.2	-42.2	8.0	-40.3	1.9
サ ー ビ ス	-45.7	-35.8	9.9	-33.4	2.4
建 設 業	-27.3	-9.8	17.5	-11.4	-1.6
不 動 産 業	-23.4	-12.5	10.9	-13.5	-1.0
総 合	-44.0	-32.7	11.3	-30.4	2.3

<製造業>

世界的なデジタル化に伴う需要の拡大により精密機械を中心に業況は改善し、9期連続していた悪化傾向から持ち直しの動きが見られた。売上額・受注残・収益においても減少・減益幅を縮小させた。価格面では、販売価格はわずかに持ち直し、原材料価格は資材の不足や仕入値の高騰を受けて上昇傾向を強めた。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に「売上の停滞・減少」、「同業者間の競争の激化」の順となり、重点経営施策の上位2位も「販路を広げる」、「経費を節減する」と前期同様の順となっている。

来期の業況は、水面下ながらわずかに改善し、持ち直しの動きを続けると見ており、売上額・受注残・収益も減少度合を弱めると予想している。

<卸売業>

世界的な半導体需要が追い風となり機械器具を中心に改善し、業況は水面下ながら回復の動きが進んだ。売上額・収益についても改善傾向が続いている。価格面では販売価格の下降傾向が一服し、仕入価格は上昇を強めた。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に「売上の停滞・減少」、「同業者間の競争の激化」の順となり、重点経営施策の上位2位も前期同様に「販路を広げる」、「経費を節減する」と続いている。

来期の業況は、ゆるやかな回復を進めると予想しており、売上額・収益ともに改善すると見ている。

<小売業>

業況は、家電・燃料・食料品等生活需要品類を中心に改善し、悪化幅を縮小させた。売上額・収益についても持ち直した。価格面では、販売価格は厳しさが和らぎ、仕入価格は厳しい状況に転じた。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に「売上の停滞・減少」、「同業者間の競争の激化」の順となり、重点経営施策の上位2位も「経費を節減する」、「品揃えを改善する」と上位に変化なく続いている。

来期の業況は、今期並に推移すると予想している。売上額・収益はやや改善し、厳しさが和らぐと予想している。

<サービス業>

娯楽・サービス・観光では緊急事態宣言の再発令に伴う一部活動自粛要請により痛手を受けたものの、影響範囲は限定的となり、業況は全体的に改善が見られた。売上額・収益においても悪化に歯止めがかかり水面下ながら回復した。価格面では料金価格は前期同様の低下基調が続き、材料価格はわずかながら上昇し厳しさを強めた。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に「売上の停滞・減少」、「同業者間の競争の激化」の順となり、重点経営施策の上位2位は「販路を広げる」、「経費を節減する」が同率となった。

来期の業況は、ワクチン効果を期待しながらの状態と今期同様の水準で推移し、売上額・収益はゆるやかな改善が続くと予想している。

<建設業>

業況は続いていた足踏み状態から改善が見られた。売上額・受注残・施工高・収益の減少幅も縮小された。価格面では請負価格は下降傾向が一服し、材料価格は世界的な木材価格高騰等の煽りを受けて上昇を強めた。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に「売上の停滞・減少」、「同業者間の競争の激化」の順となり、重点経営施策の上位2位も前期同様に「販路を広げる」、「経費を節減する」の順となっている。

来期の業況は、今期並に推移すると予想している。売上額・受注残・施工高・収益についても今期同様の水準が続くと見ている。

<不動産業>

停滞していた業況は改善が見られた。売上額・収益についても減少幅が縮小された。価格面では、販売価格が好転したものの、建築資材の需要の高まりを受けて、仕入価格は上昇傾向を強めた。

経営上の問題点の上位2位は「同業者間の競争の激化」、「商品物件の不足」の順となり、重点経営施策の上位2位は前期同様に「情報力を強化する」、「販路を広げる」の順となっている。

来期の業況は、売上額・収益ともに今期並に推移すると予想している。

〔注〕

○D.I (Diffusion Index ディフュージョン インデックス の略)

D.I (ディーアイ) は増加（又は「上昇」「楽」など）したと答えた企業割合から、減少（又は「下降」「苦しい」など）したと答えた企業割合を差し引いた数値のことで、不変部分を除いて増加したとする企業と減少したとする企業のどちらの力が強いかを比べて時系列的に傾向をみようとするものです。

○（季節調済）D.I・・・本調査におけるD.Iは季節調済D.Iを使用しています。

季節調済とは、期ごとに季節的な変動を繰り返すD.Iを過去5年間まで遡って季節的な変動を除去して加工したD.I値です。修正値ともいいます。

○傾向値

傾向値は、季節変動の大きな業種（例えば小売業）ほど有効で、過去の推移を一層なめらかにして景気の方角をみる方法です。